

通学安全リーダー ハンドブック

本ハンドブックの活用にあたって

先生方には日ごろから、本県の教育活動の充実と発展のために御尽力いただいておりますことに厚く感謝申し上げます。

さて、社会を取り巻く環境の変化に伴い、子供たちの周りでは、様々な交通事故や犯罪が発生しており、それらはいつ、どこで起こるかわかりません。

子供たちが、交通事故や犯罪に遭わないようにするためには、子供たち自身が、交通ルールや防犯などについての知識を身に付け、安全を確保するために適切に行動できる力（危険予測・回避能力）を育むことが重要です。

このような力を育むために、県では、「通学児童安全意識啓発事業」として、本ハンドブックを作成しました。

学級活動等の授業、朝の会・帰りの会でのワンポイント指導などを通して、積極的かつ有効に御活用いただき、安全教育の充実を図っていただきますようお願いいたします。

茨城県教育委員会教育長 森作 宜民

小学生が関係した交通事故（令和4年中）

【茨城県内の状況】

※（ ）は、前年との差

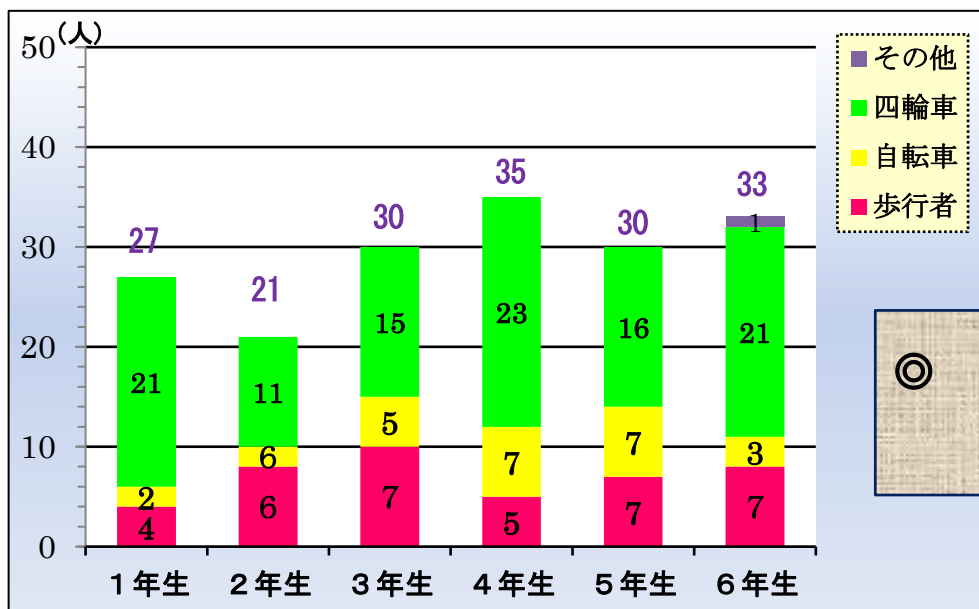
- 発生件数：6,271件（+342）
- 負傷者数：7,699人（+456）
- 死者数：91人（+11）

うち、
小学生は

- 発生件数：188件（-2）
- 負傷者数：176人（+18）
- 死者数：0人（±0）

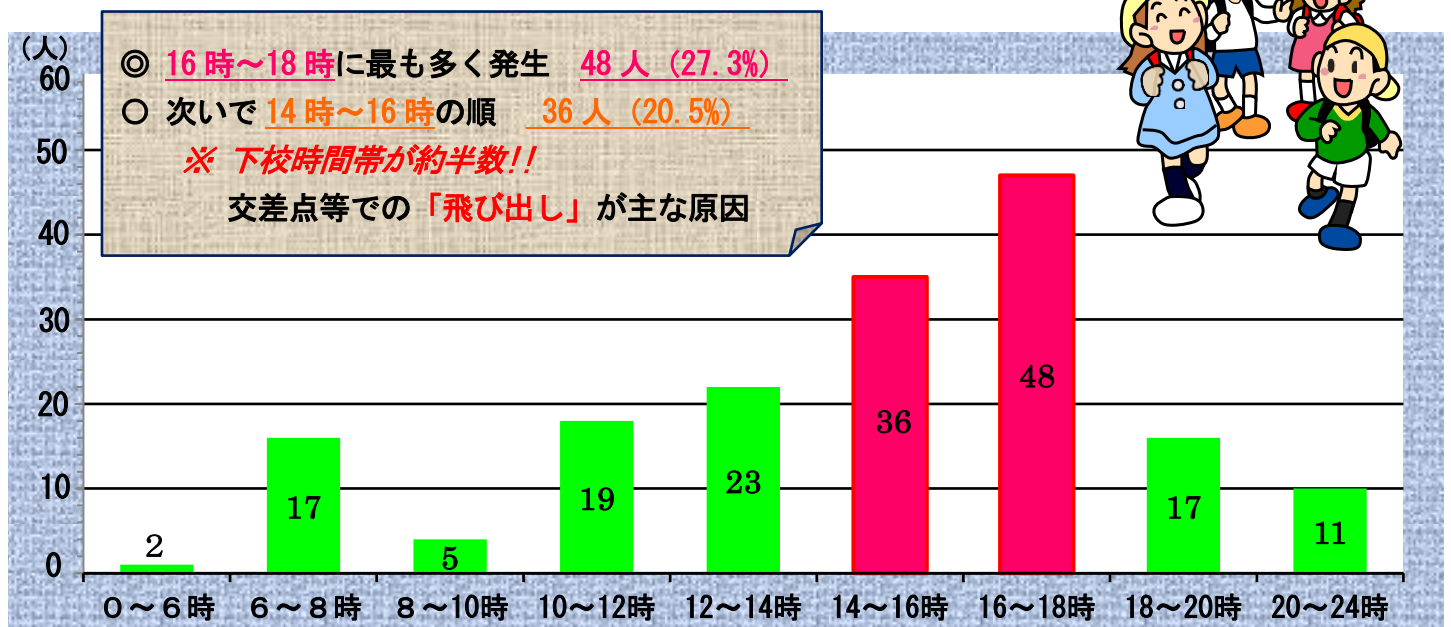
（1）状態別・学年別負傷者数

※ 四輪車は同乗中



◎ 「四輪車同乗中」が最多
107人（60.8%）

（2）時間帯別負傷者数

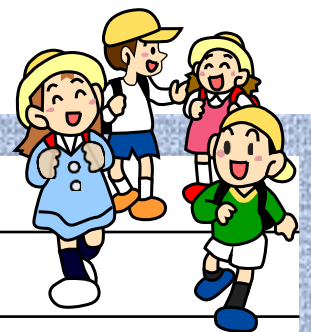


◎ 16時～18時に最も多く発生 48人（27.3%）

○ 次いで14時～16時の順 36人（20.5%）

※ 下校時間帯が約半数!!

交差点等での「飛び出し」が主な原因



児童の登校については、登校班を編成し、集団登校している学校と、登校班を編成せず、家が近い友達などと一緒に登校している学校があり、一部で自転車通学を行っている学校もあります。

また、下校については、学年や低・中・高学年ブロックごとに、帰る方向が同じ人と一緒に下校したり、登校班がある学校は、時期や行事などにより、一斉下校する場合もあります。

さらに、皆さんを様々な事故・事件から守るために、保護者や地域の方が危険箇所立ち、見守り活動を行っていただいています。



※ 通学時に、こんな問題点はありませんか…？

《登校班がある場合》

- 登校班で登校する際の主な問題点として、次のようなことが考えられます。

□ 集合時間にいつも遅れて来る人がある。

集合場所には時計がない場合が多く、“遅れて来る人をいつまで待てばいいのか？”の判断に迷うところ。特に、雨の日や冬場などは、全員集まるまで待っているのは、苦痛に感じるのではないでしょうか……？！

□ 欠席の連絡を忘れる。

学校に欠席の連絡をしても、登校班への連絡を忘れるケースが多くあります。遅れてくる人を待つと同じように、その人が来るまで待っていたりすることはありませんか……？！

□ 下級生が、班長さんの注意等をきかない。

上級生の注意をきかず、横に広がって歩いたり、ふざけたりしながら歩いてはいませんか……？！

□ 途中で別の班の友達に会うと一緒に歩きはじめる。

班長さんなどの上級生を含め、途中で別の班の友だちに会うと、班で登校していることをつい忘れて一緒に歩きはじめ、班が崩れてしまっていることはありませんか……？！

※ このようなこと以外にも、次のような歩き方等についての問題点も考えられます。

《登校班がない場合・下校

- 学年や男女によって異なる部分がありますが、登校班がない場合での登校や下校する際の主な問題点として、次のようなことが考えられます。

□ まっすぐ歩かない、前をよく見ていない。

つま先やかかとでクネクネ歩いてみたり、こそこそと下を向きながら話をしたり…、中には、後ろ向きで歩いて他の人などにぶつかったりする場面はありませんか……？！

□ 友達にちょっかいを出し、ふざける。

身体をくすぐったり、からかったり…、中には、突然走り出して車道に飛び出してしまう場面はありませんか……？！

□ 持ち物などで遊びながら歩く。

給食当番用の白衣の入った袋などを放り投げたり振り回したり、雨の日は傘で遊んだり…、中には、水たまりの中をジャブジャブと通って歩いたりする場面はありませんか……？！

自分の学校での問題点は……？！

【高めたい・身に付けたい力】

- ① 交通ルールをしっかりと守ること
- ② 正しい交通マナーを実践すること
- ③ 危険を予測する力や危険を回避する力を養うこと（防犯も含めて）

☆ 登校班がある場合は、集合時間をきちんと守り、欠席する時には、班長さんでなくとも同じ班の人に必ず連絡する。

（特に、学級閉鎖等が多い冬場は要注意）

☆ 班長さんなどの指示にしたがい、ふざけたりせず、きちんと一列に並んで歩く。

☆ 車などの動きに十分な注意をはらい、慎重な行動を心がける。（信号を守る、交差点での一時停止、右左の安全確認、寄り道をしないなど） 危険を予測し、回避する！

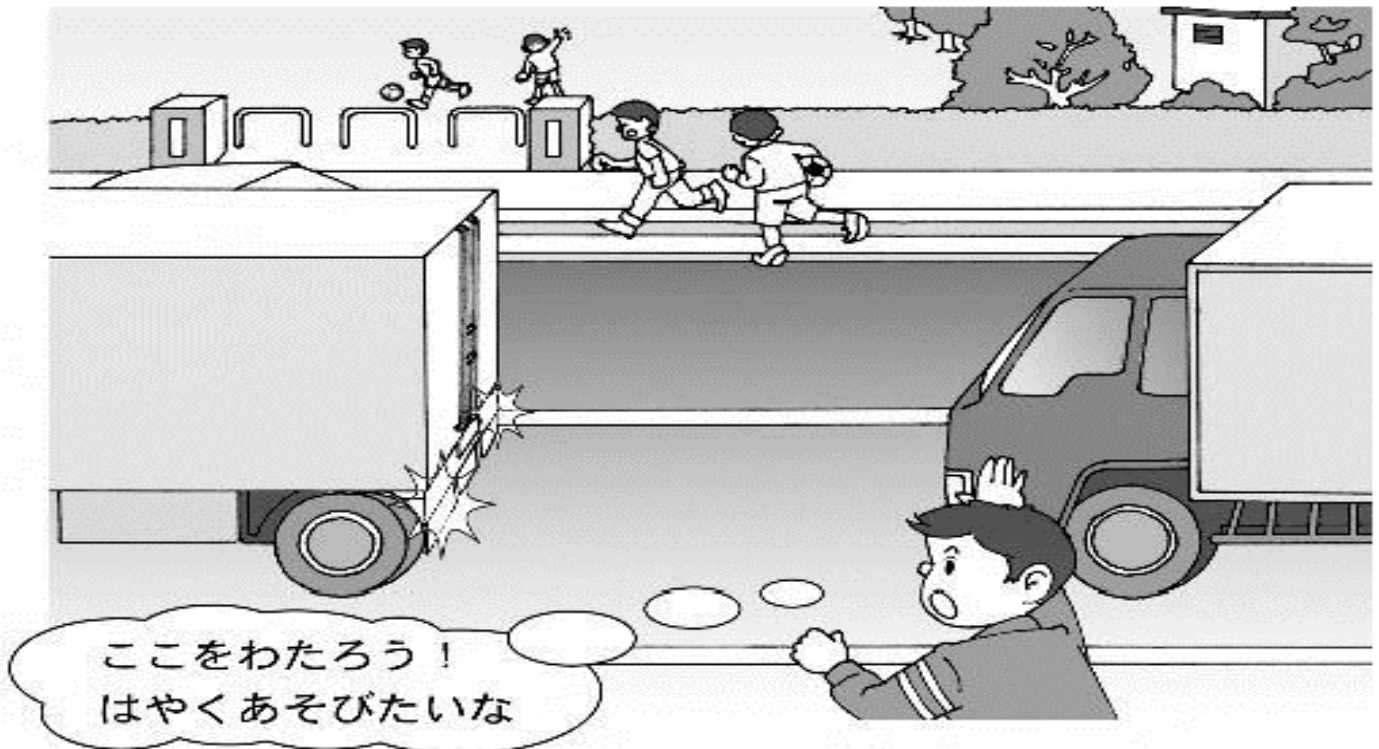


※危険予測では、場面の様子や状況をよくとらえ、目に見えている危険ばかりでなく、目に見えない危険を予測することが重要です。

☆ どんなどころに危険がひそんでいるか、考えてみよう。

《ケース① 道路の横断》

車の間から、道路をわたってむこうの公園へ行こうとしています。



(資料：一般財団法人 日本交通安全教育普及協会)

● どのような危険が予測できますか…？

状況：停車している車の間から男の子が道路を渡ろうとしている。

友達と早く遊びたくて急いでいる

- ・ 反対車線から走ってくる車に接触する。
- ・ 信号が青に変わり、車が発進し、車に接触する。
- ・ あわてて飛び出し、転倒する。

● その危険をさけるには、どうしたらよいでしょうか…？

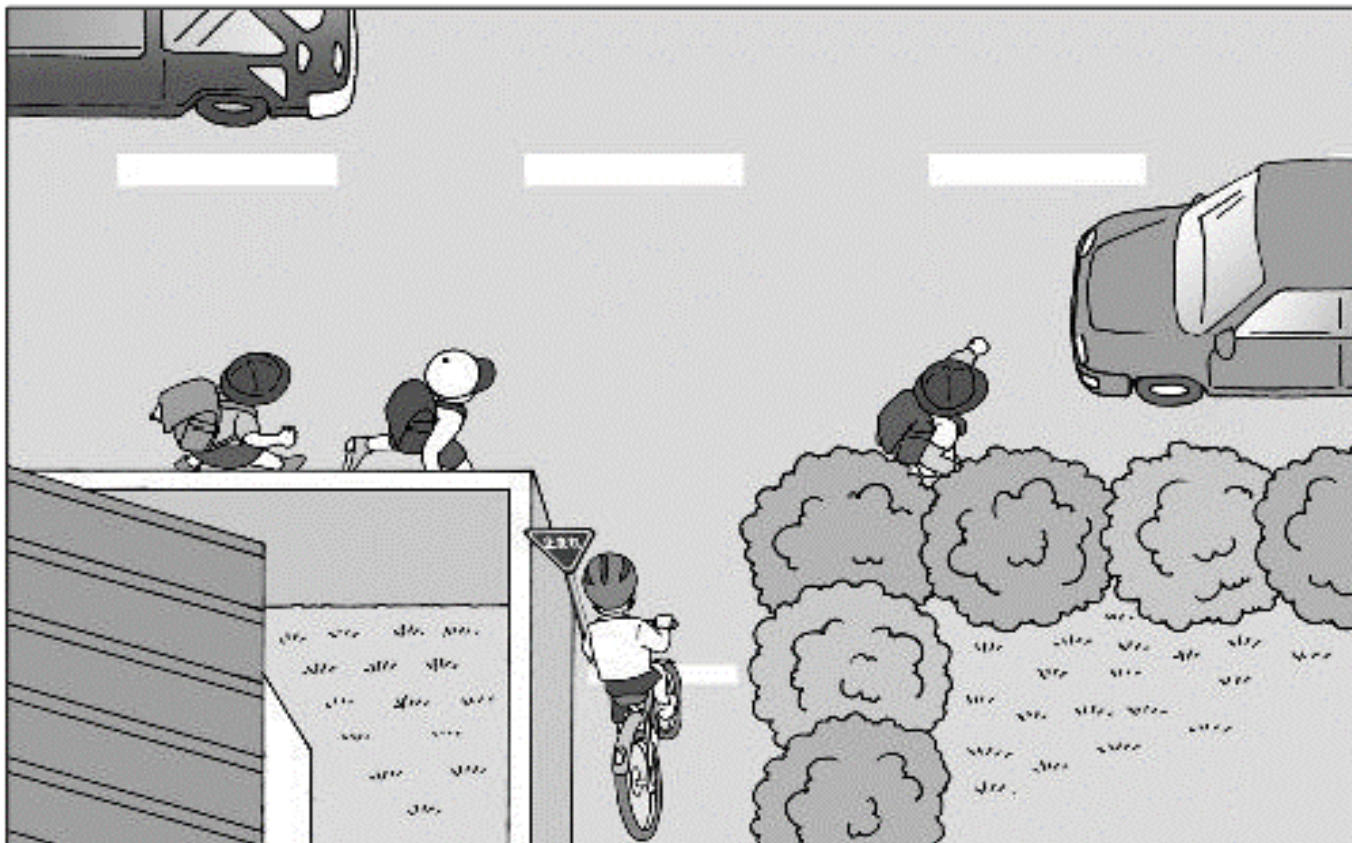
- ・ 道路を横断するときには、横断歩道や歩道橋を使い横断する。
- ・ 横断歩道や歩道橋がない道路では、左右の安全を確認し横断する。

※やむを得ず停車している車の間から横断しなければならない時には、左右両方向から車が走ってくる場合があることを考え、停車している車の陰から左右の安全を目で確認してから渡る。

☆ どん^{きけん}なところに危険がひそんでいるか、考えてみよう。

《ケース② 自転車で広い道に出るとき》

自転車で狭い道から広い道へ出ようとしています。



（資料：一般財団法人 日本交通安全教育普及協会）

● どのような危険^{きけん}が予測^{よそく}できますか…？

状況：自転車が広い道に出ようとしている。

右側から車が、左側から小学生が走ってくる。

- ・ 左側から歩行者が来ていて、飛び出したらぶつかる。
- ・ 右側から自動車^{きけん}が来ていて、飛び出したらぶつかる。

● その危険^{きけん}をさけるには、どうしたらよいでしょうか…？

- ・ 広い道に出るときには一時停止して左右の確認をする。
- ・ 見えないところの状況を予測しながら走行する。

※危険を予測して回避するために、減速したり一時停止したりすることの大切さをしっかり理解させる。

☆ 動画を見て、どんな危険があるか予測してみよう。

《ケース③ 公園前の横断歩道》



クリックすると動画を見ることができるよ！

● どのような危険が予測できますか…？

状況：道路の反対側の友達に呼ばれている。

自転車に乗った人が、渡るよう声をかけてくれている。

- ・ 反対車線を走る車に気づかずぶつかる。
- ・ 横断歩道手前で止まっている車が急に動き出す。 など

● その危険をさけるには、どうしたらよいでしょうか…？

- ・ 友達に呼ばれても急いで渡らない。
- ・ 横断歩道を渡るときは、手前で必ず止まり、左右の安全を確認してから渡る。 など

※12歳以下の歩行者では「飛び出し」による事故が多くなっており、十分な指導が必要。

《ケース④ 住宅街の自転車》



クリックすると動画を見ることができるよ！

● どのような危険が予測できますか…？

状況：対向車は左折しようとしている。

ミラーには、自分の右側から走ってくる車が映っている。

- ・ 右側から来る車（ミラーに映っている車）とぶつかる。
- ・ スピードを落とさずに曲がろうとして転倒してしまう。 など

● その危険をさけるには、どうしたらよいでしょうか…？

- ・ 交差点では必ず一時停止して、安全を確認する。（ミラーもよく確認する）
- ・ 左折する際は十分速度を落とす。（車体が外側に膨らみ、車道に出てしまう）

※出会い頭での事故の多くは信号のない交差点で発生している。

危険予測トレーニング〔KYT〕①（指導例）

ケース①の事例の他、タブレット端末等を使用し、ケース③の事例や下記サイトの視聴覚教材を活用することも効果的です。
文部科学省×学校安全ポータルサイト（映像資料）
https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/index_video.html

題材名	あぶない！車のあいだからどうろをわたるとき		
ねらい	◎ 道路横断時における危険を予測することができる。 ◎ 安全で正しい横断ができるようにする。		
事前の活動	・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ・事前調査の集計、分析		
段階	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	資料
はじめ	問題を把握する。 1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。 2 問題場面を知る。	○ 「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ○ 「ヒヤリ・ハット地図」を作成し、学区の危険箇所を把握させる。 ○ 身近な交通場面の絵や写真を掲示する。	調査結果表
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 車の間から道路を渡って、むこうの公園に行こうとしています。どんな危ないことが起こりそうですか？ </div> 	環境面 <ul style="list-style-type: none"> ・手前の車線に車が停車している。 ・道路の反対側に友達が見える。 ・道路の反対側に公園がある。 ・停車している車の間から男の子が道路を渡ろうとしている。 心理面 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と早く遊びたくて急いでいる。 	場面絵
展開	場面を分析する。 3 起こりうる事故を予測する。	T 「このまま道路を横断したら、どんな危ないことが起こりそうですか。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 〔予想される児童の反応〕 <ul style="list-style-type: none"> ・右側の車が動き出してぶつかってしまう。 ・左側の車がバックしてぶつかってしまう。 ・走って行って転んでしまう。 </div> ○ 交通状況から読み取れる危険をできるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかにさせる）	ワークシート

展 開	4 事故の理由を考える。	<p>T 「どうして事故が起きたのか、事故の理由を考えましょう。」</p> <p>○ 事故の原因には人的要因と環境要因の両方に関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。</p> <p>・ 前後の車の死角による危険に注目させる。</p> <div><div><p>【人的要因】</p><ul style="list-style-type: none">・ 反対車線から車が来ていることに気がついていない。・ 信号が青になって車が動き出すことに気がついていない。・ 急いでいる。・ 友達の後を追いかけてしようとしている。・ 車の運転手が子供に気がついていない。</div><div><p>【環境要因】</p><ul style="list-style-type: none">・ 車が停車している。・ 反対車線から車が来ている。・ 手前の車で反対車線の車が見えなくなっている。・ 歩道から車道に出られるようになっている。</div></div> <div><p>・ 反対車線から走ってくる車に接触する。</p><p>・ 信号が青に変わり、車が発進し、車に接触する。</p><p>・ あわてて飛び出し、転倒する。</p></div>	ワークシート
	仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	<p>T 「どうしたら安全に渡れるでしょうか。安全な行動を考えましょう。」</p> <p>○ 回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。</p> <p>○ 安全な場所（横断歩道・歩道橋）での道路横断、左右の安全確認、急がず落ち着いて行動することなどの観点から具体的な行動を話し合わせる。</p> <div><p>具体的な危険回避方法</p><ul style="list-style-type: none">・ 道路を横断するときには、横断歩道や歩道橋を使い横断する。・ 横断歩道や歩道橋がない道路では、左右の安全を確認し横断する。・ 急いでいる場合も、近くの横断歩道の場所まで行き横断する。・ 路肩に車が停車している場合など、やむを得ず停車している車の間から横断しなければならない時には、左右両方向から車が走ってくる場合があることを考え、停車している車の陰から左右の安全を目で確認してから渡る。</div>	
	仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	<p>○ 自分なりの行動基準とその有効性を検討する。</p> <p>○ 班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。</p> <p>○ 発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。（模擬的な検証）</p> <p>○ 重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。</p>	
	安全行動を適応する。 7 安全行動を実践化できるようにする。	<p>T 「道路を安全に渡るためのめあてを考えましょう。」</p> <p>○ 話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。</p>	
事後の指導	<p>○ めあてを教室内に掲示し、交通安全への意識化を図る。</p> <p>○ めあてをもとに、自分の生活について振り返り、安全を心がけて行動しようとする意欲を高める。</p> <p>○ 家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。</p>		

危険予測トレーニング〔KYT〕②（指導例）

題材名	自転車で狭い道から広い道に出るとき	
ねらい	◎飛び出しの危険性を理解し、飛び出しをしないで安全に自転車に乗ることができるようにする。	
	学習内容・学習活動	
はじめ	1 自転車によるいろいろな事故事例 ・学習のねらいや方法を理解する。 ・ 文部科学省作成映像資料、ケース④の事例等の視聴	○ 班に分ける。（班長1名を選出する。） ○ ブレインストーミングについて説明をする。
展 開	2 交通状況の判断と安全な自転車乗用 (1) 交通状況の読みとり (状況・予測・回避) ・ワークシートに記入する。 (自由に意見を出し合う。) ・意見について班でまとめる。 ・司会を中心にして発表し、問題場面を知る。 (2) 起こりうる危険の予測 ・人的要因、環境要因、心理面から理由を考える。 ・起こりやすい危険と思われるものを一つだけ取り上げて意見を出し合う。 (3) 危険回避方法 ・どうしたら安全に通行できるか、安全行動を考える。 ・班毎にまとめたものを発表する。 (4) 選定した回避方法を検証	○ 自転車による事故にもいろいろな種類があることを分からせる。 ○ 事故を自分の問題として受け止めさせる。 ○ ブレインストーミング手法を取り入れる。 ○ どの意見も受け入れることを基本とする。 ○ 理由を話し合わせる。 ○ 観察の深い意見に注目し、評価する。 ○ 回避の方法は一つでないこともあるので、根拠に触れさせ受け入れるようにする。 ○ 児童の取り上げなかった危険に触れ、さまざまな危険があることを認識させ、どれに対しても対応しなければならないことを理解させる。 ○ 起こりやすい危険と思われるものを一つ取り上げ、どうして事故が起きたか考えさせる。 ○ 危険回避の方法をワークシートに書き込ませ、自由に意見を出し合い深めさせる。 ○ 自分なりの行動基準とその有効性を検証する。
まとめ	3 自転車の安全な乗用の実践化 ・班の代表者がまとめを全体に発表する。 ・ルールやマナーの大切さを理解し、危険を予測した安全な行動に努める。	○ 事前に危険予測することの大切さを理解させる。 自転車は被害者にも加害者にもなることについて触れ、自転車損害賠償責任保険への加入の必要性についても説明する。 ○ 日頃から安全な行動を心がけることの大切さを理解させる。
事後の指導	○ 一週間の自分の生活について振り返り、安全を心がけて自転車に乗車しようとする意欲を高める。 ○ 家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ○ 保護者にも自転車損害賠償責任保険への加入の必要性について周知する。 ○ 自転車乗車時にヘルメットを着用することを必ず指導する。	

ケース②の事例の他、タブレット端末等を使用し、ケース④の事例や下記サイトの視聴覚教材を活用することも効果的です。
 文部科学省×学校安全ポータルサイト（映像資料）
https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/index_video.html

場面絵・新聞等

ワークシート

安全に通学するためには、交通安全についてばかりでなく、不審者などに遭遇しないよう、また、遭遇してしまった場合でも適切に行動できるよう、防犯についての理解を深めておくことも大切です。そのため、学校では、通学路などを点検して“地域安全マップ”を作って校内に掲示したり、不審者に遭った場合の対処の仕方などを学ぶ防犯教室を行ったりしています。

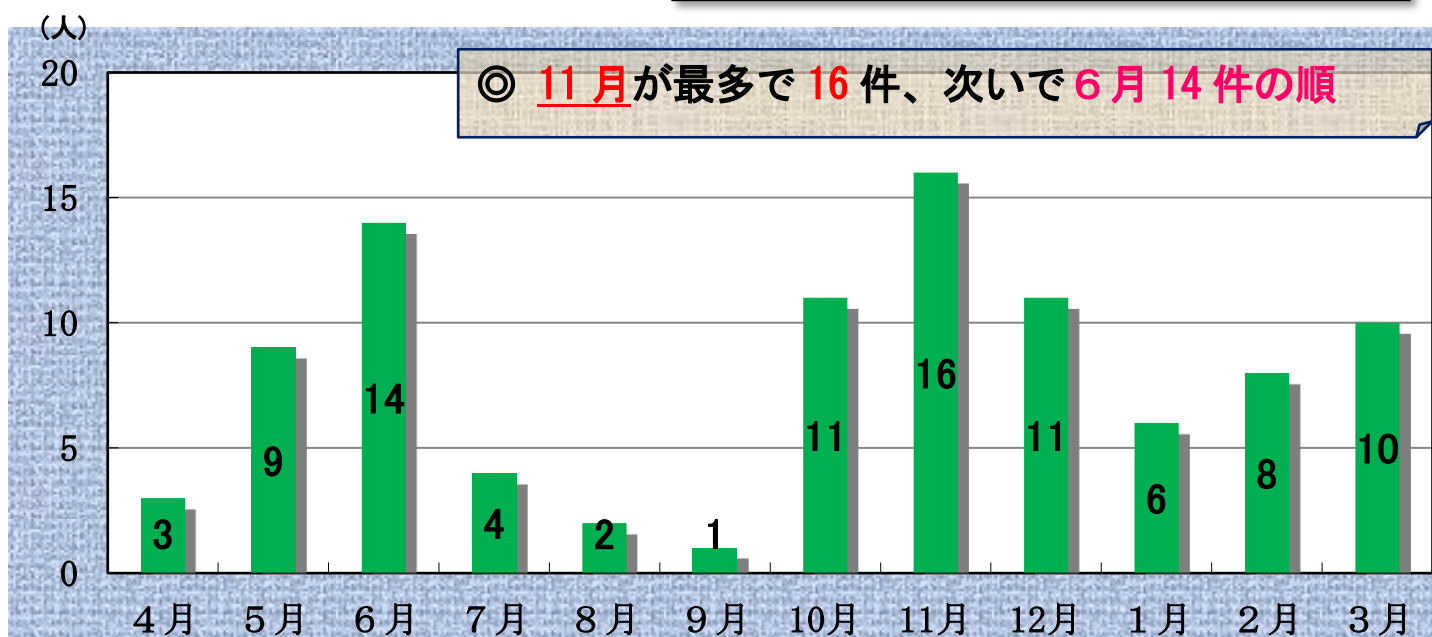
交通安全もそうですが、保護者や地域の方たちの協力を得ながら、**児童の安全への意識を高め、適切に行動できる力を身に付けさせることが重要です。**

不審者情報掲示板への書き込み状況（令和3年度）

※ 県では、不審者などに遭遇した情報を書き込める「不審者情報掲示板」の運営を行っています。昨年度は、合計で**95件**（前年比 -1）の書き込みがありました。

（1）月別書き込み状況

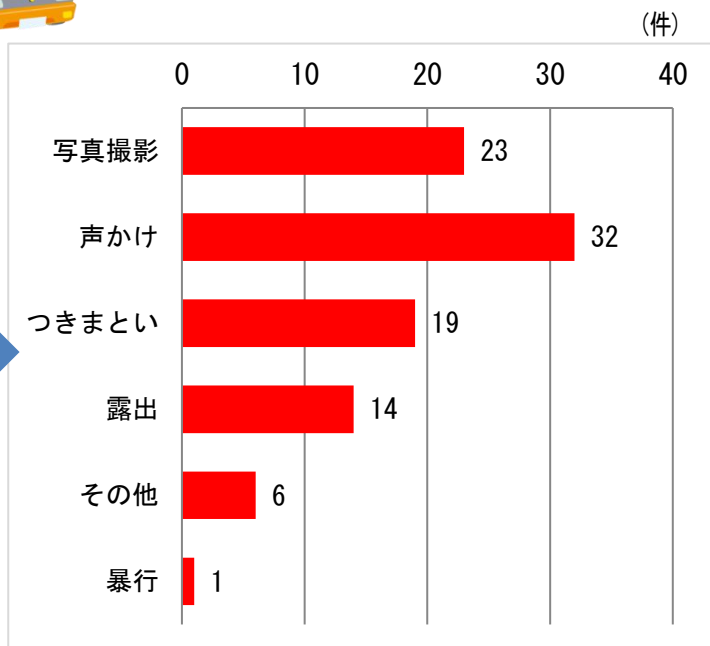
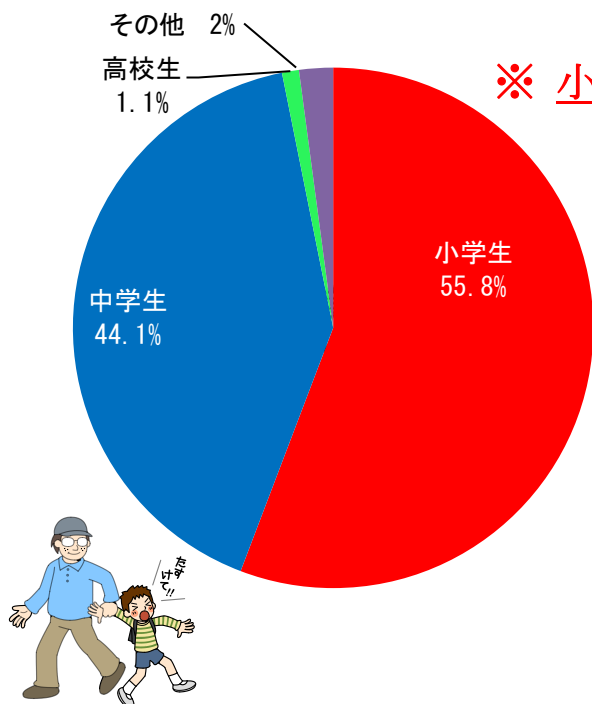
不審者情報掲示板 <http://fushinsha.ibk.ed.jp/>



（2）内訳・区分



※ **小学生が55.8%**



※ 不審者などに遭遇してしまった場合に適切な行動がとれるよう、対処方法などについて理解しておくことが大切です。

不審者による声かけ（例）

- おもちゃやお金などで誘う。
- 子供の興味のあることで誘う。
「子イヌが生まれたから見においで」 など
- 困っている人を装う。
「重い荷物を運ぶので手伝ってほしい」 など
- 知り合いのふりをする。
「お母さんが交通事故に遭ったから一緒に病院へ行こう」 など
- その他、変な頼みごとをする。

※ これらのパターンに限らず、不審者は、
あの手この手を尽くして声をかけてくるので「こういう時はどうする…？」
といったことを子どもたちに問いかけ、
考えさせておくようにしましょう。

いざという時に…

【主な対処方法】（例）

- カバンをつかまれたら…
捨ててダッシュする
- 車の中から道を聞かれたら…
ドア前方に立つ
- 声をかけられたら…
相手からできるだけ距離を置く
自転車を相手との間に位置させる



こどもを守る 110 番の家等の目印

《知っておきたいこと》

- 防犯ブザーの使い方 → ランドセルのすぐ手に届く場所につける。
- 緊急時の連絡方法 → メモ等に記入しておく。（家族の携帯番号など）
- いざという時に助けを求める（逃げ込める）場所
→ こどもを守る 110 番の家、コンビニエンスストア、ガソリンスタンドなど

自ら危険を察知・予測し、回避できるように
行動することが大切です。

不審な人にあわないようにするために

- 登下校では必ず**決められた通学路**を通るようにしましょう。
- **車道からなるべく離れて歩く**ようにし、通る車には十分注意しましょう。
- **路上駐車している車には近づかない**ようにしましょう。
- 同じ方面の友達と一緒に下校し、**できるだけ一人にならない**ように心がけましょう。
- 一人になってしまう場合には、時々後ろをふり返るなど、**周りの様子に気を付ける**ようにしましょう。
- マンションなどでエレベーターを利用する場合には、知らない人が一緒にいたら先に乗ってもらい、後で乗るように伝えましょう。
- 防犯ブザーは**ランドセルのすぐ手が届く場所**につけるようにしましょう。

「通学路安全マップ」を作ろう!!

◎ 子供たち自身が危険を予測し、回避できる力を身に付けるための方法として有効なのが、「通学路安全マップ」の作成です。

STEP 1 「計画する」(事前の準備)

- ・登校班が同じ人などとグループを作る。
- ・役割分担(リーダー、副リーダー、写真係、地図係、インタビュー係など)を決める。
- ・マップを作成する手順などを確認する。 等

STEP 2 「考える」(事前の学習)

※ **危険な場所**と**安全な場所**について考えてみよう。また、その理由も考えてみよう。

◆ 危険な場所 (どんな場所が危険かな…?!)

キーワード 「入りやすい+見えにくい」

(例)

- ・
- ・
- ・

◆ 安全な場所 (どんな場所が安全かな…?!)

キーワード 「入りにくい+見えやすい」

(例)

- ・
- ・
- ・

@ **危険な場所**や**安全な場所**などについて、実際に**自分の目で確かめること**はとても大切なこと…
「さあ、フィールドワークへ!!」

STEP 3 『調査する』(フィールドワーク)

- 学校までの地図をもとに、**危険な場所**や**安全な場所**などについて調査する。
- ・カメラで様子を撮影し、気付いたことなどを記録(**人の顔や家の中などを無断で撮影しないよう注意!!**)
- ・地域の方や警察の方などにインタビュー(元気なあいさつも忘れずに…)
- ・こどもを守る110番の家などを確認 等

STEP 4 『作成する』(マップづくり)

- ◎ **危険な場所**や**安全な場所**など、調査した結果を**見やすく、分かりやすいように工夫**しながらマップを作成する。
- ・写真や絵、記号、色づかい
(個人宅は書かない、車のナンバーを塗りつぶすなどに注意!!)
- ・吹き出しなどのコメント
(危険な場所については、なぜ危険なのか、その理由もあわせて記入)



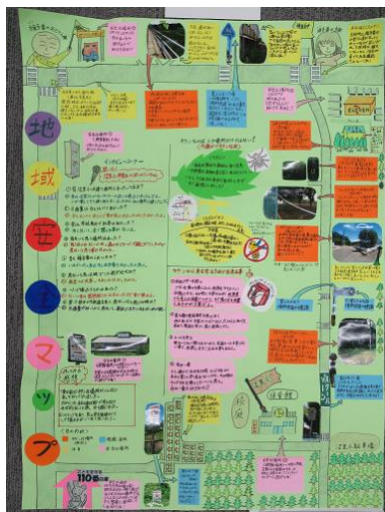
※セーフティマップの活用(次ページ参照)

STEP 5 『活用する』(生活に生かす)

- **発表会**を行ったり、**校内に掲示**したりする。
- マップを使って定期的に通学路の安全点検を行い、**新たな危険箇所などの情報を追加**していく。



地域安全マップコンクール'22 入賞作品



地域安全マップコンクール
の入賞作品については、茨城県
警察本部HPにて公開されて
います。

各学校で作成する際の参考
にしてみましょう!

茨城県警察本部HP

→ 安全安心な暮らし

→ 地域安全マップコンクール'22

【広げよう】～ みんなでつくる安全マップ ～（セーフティマップの活用）



※ セーフティマップでは、車がよく急ブレーキをかける地点や事故が多く起きているところを写真で見ることができます。

また、みんなが作った「通学路安全マップ」に書き込んだ情報やみんなが危ないと思っている地点等を追加することで、学校全体の「通学路安全マップ」へと広げることができます。



《基本編》 クリック！

① マップのマークを覚えよう。



急ブレーキの多い地点



事故が多いエリア




みんなが危ないと思っている地点

《応用編》

③ 情報を追加する。

○ 画面右の“地点検索”をクリックし、自宅や学校付近の位置（「〇〇市△△町」）と入力して検索すると、その付近の地図が表示されます。

○ 地図をもとに、**危険な場所**をクリックすると、その地点に  マークと写真が表示され、情報を書き込むことができます。

○ みんなが危ないと思っている地点に、意見を書き込むことができます。

※ 「セーフティアクション」では、安全への活動や交通安全の情報などを紹介しているよ。

② マークされているところの情報を見よう。

- マークにマウスを重ねると、その地点の写真やどんな事故が多いかがわかります。
- マークをクリックすると、その地点の詳しい情報を見ることができます。



みんなの意見
危ないと感じたところがある人は「そう思う」をクリック

道路が狭い / 歩道がない	そう思う	7人
見通しが悪い	そう思う	3人
スピードが出ているクルマが多い	そう思う	1人
歩行者 / 自転車の出入りが多い	そう思う	0人

例：カーブがきつい

※300字以内
利用規約に同意の上登録してください
個人や特定団体への誹謗中傷など不適切な投稿は削除されます

危ないと感じた具体的な理由

例：電柱が倒れていて見通し悪い

※300字以内
利用規約に同意の上登録してください
個人や特定団体への誹謗中傷など不適切な投稿は削除されます



こんな時は
学校や家の人
または
警察(110番)へ

※ 警察へ110番通報すると、水戸市の「茨城県警察本部通信司令室」につながりますので、次のようなことをできるだけ正確に伝えましょう。

- ・交通事故に遭った
- ・不審な人や車を目撃した
- ・倒れている人を発見した
- ・ひったくりなどの犯罪を目撃した、被害にあった など



- ① 事件か、事故か？
- ② それはいつ？
- ③ 場所はどこ？
- ④ 犯人等を見たか？
(人相、車の色やNo.など)
- ⑤ 現場はどうなっているか？
(けが人、被害の状況など)



本ハンドブックは、保護者の皆様方へお願いしたい事柄も記載されています。データは茨城県教育委員会ホームページからダウンロードできますので、保護者への周知をお願いいたします。